

# 令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・  
指定都市名

鹿児島県

学校名

瀬戸内町 古仁屋中学校

人権課題

子供の人権

対象学年・  
取り扱った教科等

全学年・学校生活全体

目標・人権教育のねらい

- ・ 発達段階に応じ、人権の意義・内容や重要性について理解を深める。
- ・ 自分の大切さと共に他の人の大切さを認めることを単に理解するだけでなく、具体的な態度や行動を養う。
- ・ 自尊感情や自己肯定感の低下を人権教育で克服し、共感的・支持的な人間関係づくりに重点をおく。

実施した内容

- ・ 4月当初、いじめ問題を考える週間の設定。  
アンケートの実施、道徳授業、学級でいじめをなくすための討議、いじめ撲滅の誓いを立てる。いじめ撲滅宣言として掲示を行った。
- ・ 基本的人権について、「心の目で見つめてみると…」の講演を聴く。その後人権標語の作成を全学年行い、町主催事業への標語提出を行った。
- ・ 全教育活動で、生徒同士が認め合う場の設定を意識づけた。

工夫した点

- (指導上の工夫)
- ・ 授業4則（挨拶，集中，私語をしない，眠らない）の学業指導の徹底を図り，班活動，班学習を活性化させ，短学活，生徒会活動，部活動でも互いに認め合う場を設定した。
  - ・ いじめ撲滅宣言はいじめは絶対に許されない行為であることが伝わる意見を出させる。
- (地域や関係機関との連携)
- ・ 元人権同和教育課の近隣中学校校長と瀬戸内町人権擁護委員に講話をしていただいた。
  - ・ 瀬戸内町人権標語募集への対応を行った。

他教科との  
関連

- ・ 学校生活全体で基本的人権について学習した。
- ・ 道徳授業で，各学年，いじめのない世界へ（1）を取り扱い，いじめに関する考えを深めた。
- ・ 学校行事，生徒会行事等で，生徒主体の活動を行い，お互いを認め合う場の設定をした。

事業成果

- ・ 知識的側面：自分の人権のみならず他人の人権について正しく知ることができた。
- ・ 価値・態度的側面：班活動等を通して，人権を相互に尊重し合うことができた。
- ・ 技能的側面：自分と他人の大切さが認められるような環境作りをしようという意識が高まっている。

# 令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・  
指定都市名

鹿児島県

学校名

瀬戸内町 古仁屋中学校

人権課題

高齢者の人権

対象学年・  
取り扱った教科等

1年・全学年 総合的な学習

目標・人権教育のねらい

- ・ 高齢者がおかれている状況を「人権、権利」の視点から理解する。
- ・ 高齢者が平等に社会参加するために必要なことについて考えを深める。
- ・ 誰もが平等に暮らせる社会を目指そうとする意欲を高める。
- ・ 高齢者に対する思いやりの心を持ち、親切にする意欲・態度を養う。

実施した内容

- ・ 1年総合的な学習にて、「郷土芸能」に講師として、高齢の方をお招きし、生徒に八月踊りの学習を行った。5回にわたって触れ合う機会を設定し、文化祭で共に披露した。
- ・ 奄美復帰運動70周年に向け、高齢者の方々が歩んできた歴史を振り返るとともに、先人の偉大さを感じとる「先人の思い」のDVD視聴を行った。

工夫した点

- (指導上の工夫)
- ・ 様々な活動をされている高齢者の思いにふれ、高齢者の多様な考え方・生き方があり、人生の正解は一つではないことに気づかせる。
  - ・ 奄美がおかれていた歴史を学び、人権のない社会に思いをはせ、自分にできることを振り返らせる。
- (地域や関係機関との連携)
- ・ 町社会教育課との連携、島口・伝統芸能大会等への参加

他教科との  
関連

- ・ 道徳「ごめんね、おばあちゃん」等や学級活動にて、高齢者の基本的人権について学習し、総合的な学習の時間で学んだ内容を振り返らせながら指導を行った。

事業成果

- ・ 知識的側面：高齢者の方々が様々な知恵や技術をもっていることを知ることができた。
- ・ 価値・態度的側面：高齢者に対する感謝や思いやりの気持ちを育むことができた。
- ・ 技能的側面：生活の中で、自分自身にできることを考えることができた。

# 令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・  
指定都市名

鹿児島県

学校名

瀬戸内町 古仁屋中学校

人権課題

障害者の人権

対象学年・  
取り扱った教科等

全学年・道徳

目標・人権教育のねらい

- ・ 障害者がおかれている状況を「人権、権利」の視点から理解する。
- ・ 障害者が平等に社会参加するために必要なことについて考えを深める。
- ・ 誰もが平等に暮らせる社会を目指そうとする意欲を高める。

実施した内容

- ・ 11月下旬～12月上旬に人権旬間を設定した。  
道徳授業にて、かごしま大会（全国障害者スポーツ大会）啓発資料「心のバリアフリーへの取組」、「点字について」、「聴覚障害者との旅行DVD」を取り扱い、様々な場面を想定して、多様な考え方、自分たちにできることを考える。

工夫した点

- (指導上の工夫)
- ・ 話合いの際に、障害者の多様な考え方があり、正解は一つではないことに気づかせる。
  - ・ それぞれの場面を考えさせ、自分にできることを話し合わせる。
- (地域や関係機関との連携)
- ・ かごしま大会の啓発資料の活用

他教科との  
関連

- ・ 社会科「人権と共生社会・これからの人権保障」等や学級活動にて、基本的人権について学習し、総合的な学習の時間で学んだ内容を振り返らせながら指導を行った。

事業成果

- ・ 知識的側面：社会における障害者の状況を知ることができた。
- ・ 価値・態度的側面：誰もが同じように暮らせる社会について考え、共有し、平等な社会への意識が高まった。
- ・ 技能的側面：生活の中で自分自身にできることを考えることができた。

# 令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・  
指定都市名

鹿児島県

学校名

瀬戸内町 古仁屋中学校

人権課題

外国人の人権

対象学年・  
取り扱った教科等

全学年・英語

目標・人権教育のねらい

- ・ ALTとの対話を通して、英語やその背景にある文化を理解する。
- ・ 相手の発する英語を注意深く聞いて何とか相手の思いを理解しようとする意欲や態度を養う。
- ・ 既習したことを活用し相手に英語で自分の思いを何とか伝えようとする意欲や態度を養う。
- ・ 互いの文化を認め合い、人権を尊重し合おうとする態度を育てる。

実施した内容

- ・ ALTの自己紹介を聞いて、文化の違いについて班活動等で共有し認め合う。
- ・ ALTの話聞いて、自己理解したあと、班活動等で話の内容を確認する。
- ・ 自分の〇〇を相手意識をもたせて作成させる。
- ・ 未来の中学生人権作文コンテスト「本当の国際化とは」DVDの視聴を行った。

工夫した点

(指導上の工夫)

- ・ 互いの文化を認め合い、人権を尊重し合おうとする態度が身に付くよう、話合いの際に、それぞれの国で多様な考え方があり、正解は一つではないことに気づかせる。
  - ・ それぞれの場面を考えさせ、自分にできることを話し合わせる。
- (地域や関係機関との連携)
- ・ ALTとの連携で英語授業を行ってきている。
  - ・ 瀬戸内町人権擁護委員に、人権に関する全体的な講話をしていただいた。

他教科との  
関連

- ・ 道徳で、国際理解について学習した。

事業成果

- ・ 知識的側面：AITの母国や文化、日本との違いについて知ることができた。
- ・ 価値・態度的側面：異文化を認め、人権を尊重し合う態度が見られた。
- ・ 技能的側面：相手意識をもち、コミュニケーションを図ろうとしていた。

# 令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・  
指定都市名

鹿児島県

学校名

瀬戸内町 古仁屋中学校

人権課題

ハンセン病患者・元患者等と人権

対象学年・  
取り扱った教科等

全学年・読み聞かせ

目標・人権教育のねらい

- ・ ハンセン病について正しく理解する。
- ・ 患者・元患者やその家族がおかれていた境遇を踏まえた人権啓発，人権教育に取り組む。
- ・ ハンセン病患者の人権を尊重し，共に生きていく意識を育む。

実施した内容

- ・ 人権講話内で，未来の中学生人権作文コンテストDVDを視聴した「NOと言える強い心を持つ～ハンセン病から学んだこと～」
- ・ 職員・読書ボランティアによる読み聞かせを行った。1年：「時の響きて」前編・後編  
2年：バラの心は海をわたった，カミングアウト 3年：ツルとタケシ，しがまっこ溶けた
- ・ 「ハンセン病の向こう側」を活用する。

工夫した点

(指導上の工夫)

- ・ 感染症は，病原体に感染して起こる病気であることやたくさん種類があることを強調した。
  - ・ ハンセン病に関する理解を深めるために，読み聞かせの感想を共有した。
  - ・ パンフレットを活用し，ハンセン病の歴史，人権，家族の人権について事前学習を行った。
  - ・ 偏見や差別をなくすために，相手の人権を尊重することの大切さについて考えさせた。
- (地域や関係機関との連携)
- ・ 瀬戸内町人権擁護委員に，人権に関する全体的な講話をしていただいた。

他教科との  
関連

- ・ 保健体育科にて感染症について正しく学習した。

事業成果

- ・ 知識的側面：ハンセン病が感染症であり，その詳細や偏見について深く理解することができた。
- ・ 価値・態度的側面：患者やその家族の人たちの気持ちに寄り添った考えを共有することができた。
- ・ 技能的側面：人権を尊重し，共に生きていくために自分自身にできることを考えることができた。

# 令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・  
指定都市名

鹿児島県

学校名

瀬戸内町 古仁屋中学校

人権課題

犯罪被害者の人権

対象学年・  
取り扱った教科等

全学年・講話

目標・人権教育のねらい

- ・ 犯罪被害者等の多くは、支援を受けられず、社会において孤立する等の問題があることを理解する。
- ・ 誰もが犯罪被害者等となる可能性が高まっていることを理解する。
- ・ 安全で安心して暮らせる社会を実現する意識を高め、その手段を共有する。

実施した内容

- ・ 交通安全教室の一環として、「命を大切さを学ぶ教室」にて、交通事故被害者遺族（飲酒運転）の講話を行った。
- ・ 大切な命を守る作文コンクールへの作文作成を全員で取り組み、応募した。

工夫した点

- (指導上の工夫)
- ・ 犯罪被害者やその家族が、「被害者も加害者もださない社会を希求する思い」に触れ、犯罪被害者支援に理解を深める。
- (地域や関係機関との連携)
- ・ 鹿児島県警察本部及びかごしま犯罪被害者支援センターの共催事業への応募をし、講演をしていただいた。

他教科との  
関連

- ・ 社会科や学級活動にて、人権が守られる社会について学習した。

事業成果

- ・ 知識的側面：犯罪被害者が抱える問題や自分たちも被害者になることについて知ることができた。
- ・ 価値・態度的側面：犯罪被害者の気持ちに寄り添った発言が聞かれた。
- ・ 技能的側面：安全で安心して暮らすための課題や手段を考えるようになった。

# 令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・  
指定都市名

鹿児島県

学校名

瀬戸内町 古仁屋中学校

人権課題

インターネットによる人権侵害

対象学年・  
取り扱った教科等

全学年

目標・人権教育のねらい

- ・ インターネットによる人権侵害について理解を深め、それらの人権侵害をなくするために自分自身が気を付けることを考え、人権侵害についての意識や態度を育てる。

実施した内容

- ・ ポジティブな行動変容を目指すデジタル・シティズンシップ教育の本質を理解するため、メディアリテラシー、デジタルシティズンシップ講話を行った。
- ・ 行動嗜癖を知り、自分の行動の見直しを図った。
- ・ P T A等で情報モラルに関する情報提供を行った。

工夫した点

(指導上の工夫)  
デジタル化やICT活用には確かに負の側面もあるが、負の側面をしっかりと認識しつつ、正しく活用するためにはどのようなことが求められているのか、どのように活用すれば私たちが幸せになれるのか、そうしたことを意識させる。

(地域や関係機関との連携)  
ネット健康問題啓発者養成全国連絡協議会、子どものネットリスク教育研究会に講演をしていただいた。

他教科との  
関連

- ・ 学級活動や情報教育で人権侵害について学習した。

事業成果

- ・ 知識的側面：インターネットによる人権侵害は誰にでも起こる可能性があることを知ることができた。
- ・ 価値・態度的側面：人権侵害の被害者、加害者にならないための心構えを育むことができた。
- ・ 技能的側面：自分自身が気を付けること考えようとする言動が見られた。